



工学教育の原点

生涯発達エンパワメント研究と実践から



筑波大学医学医療系
国際発達ケア:エンパワメント科学研究室
安梅勅江（あんめときえ）

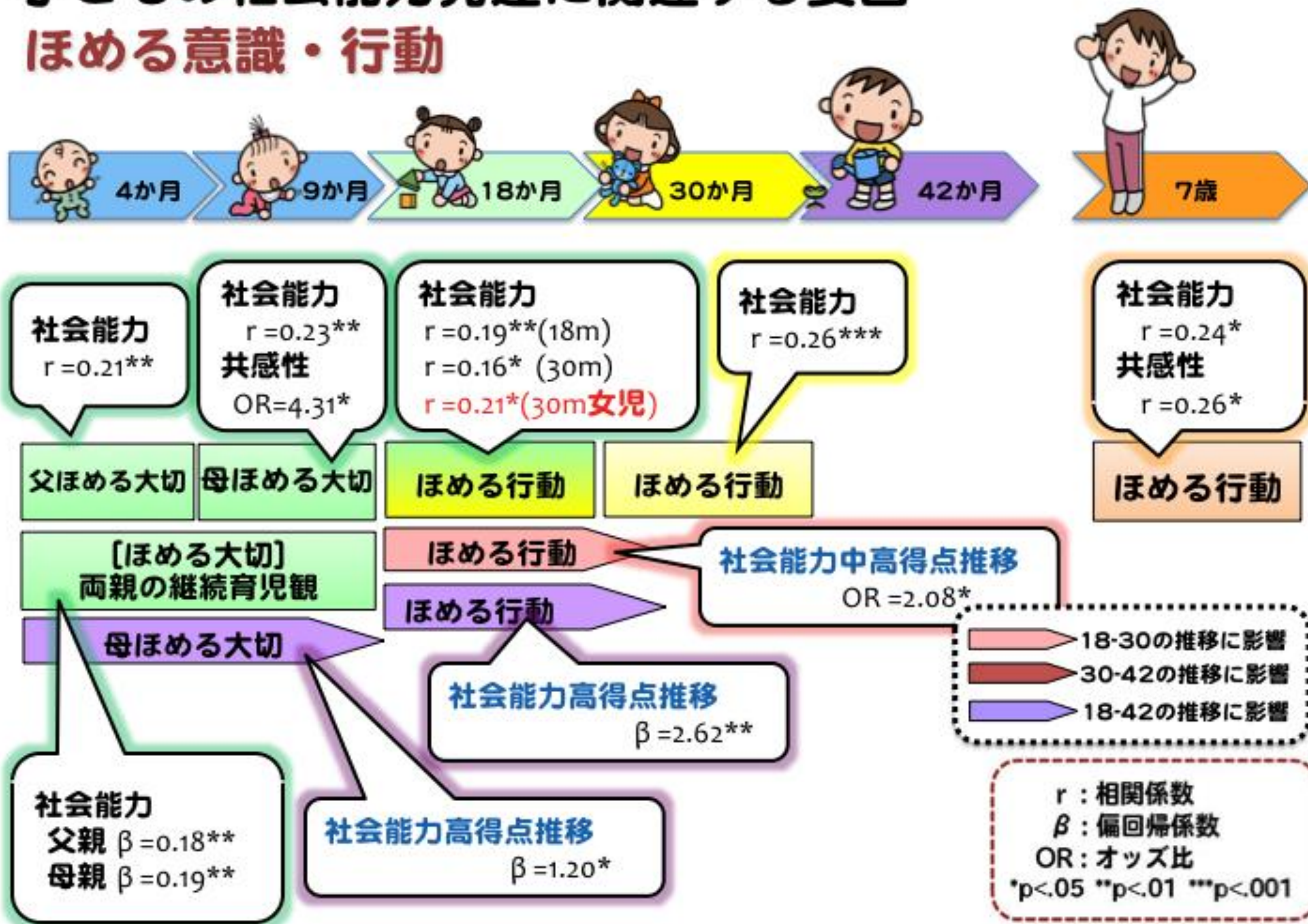


共創ウェルビーイング 生涯発達研究根拠

1. 出生コホート: 10年
全国3地点 0-10歳
2. 保育教育コホート: 27年
全国子育て支援機関 0-20歳
3. 地域コホート: 35年
自治体全住民 0-102歳

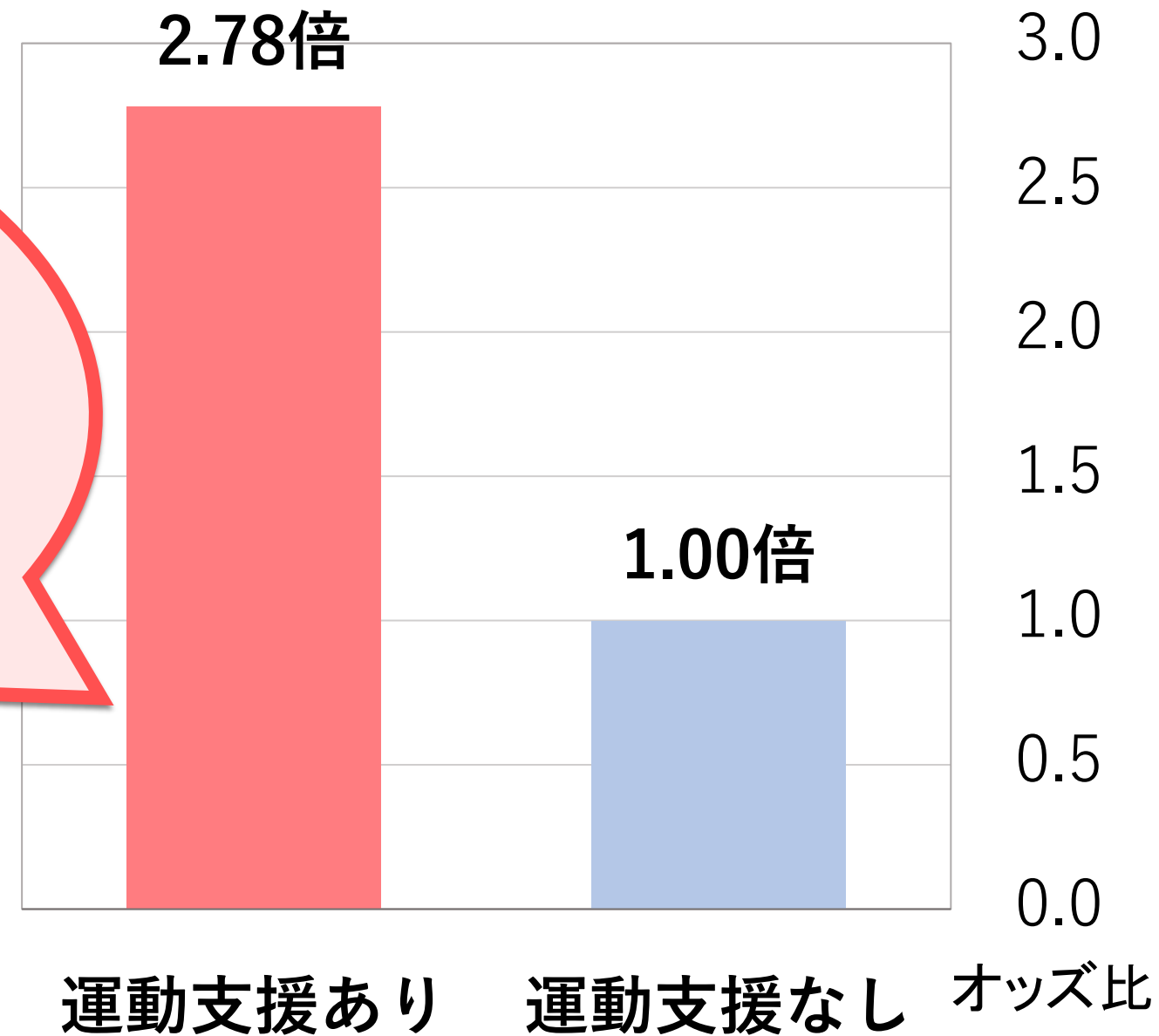
子どもの社会能力発達に関連する要因

ほめる意識・行動



幼児期に自己効力感を育む運動支援が 思春期の幸福感へ

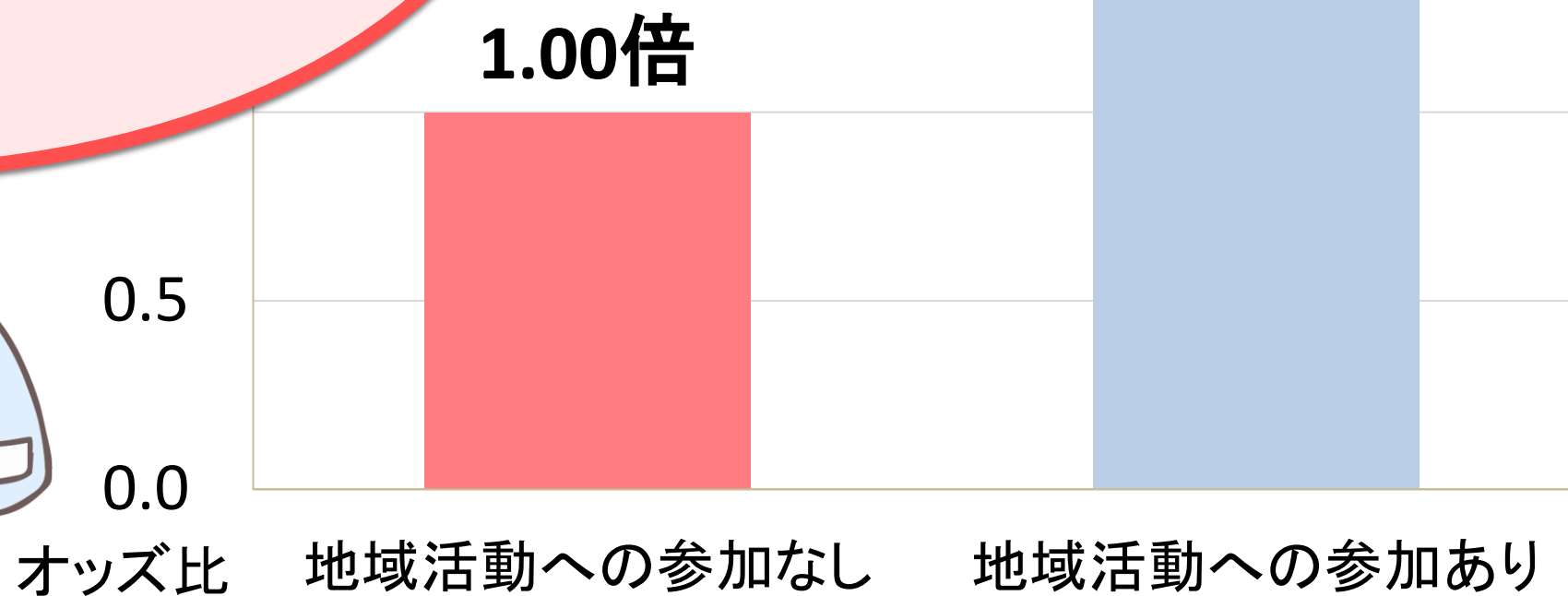
自己効力感を育む
運動支援があると、
成長後の幸福感が高い



幼児期の運動支援有無と
成長後の幸福感

地域活動への参加がその後の 認知症予防に影響

地域活動への参加がある方は
ない方と比べて6年後の認知症
予防の可能性が高い



実践根拠

人は生まれた瞬間から いのち輝き 他者と共に さらに輝く

のんちゃん、歩けなくても
みんなとリレーに出たい！

3、4、5歳児が話し合って
どうしたか？



出典：社会福祉法人路交館



生涯発達ケア倫理原則

誰もがわかる普遍的な工学倫理を

- 1.自分を大切にする
- 2.あなたを大切にする
- 3.私たちを大切にする

*「あなた」には自然、地球、宇宙を含む

工学教育への期待

いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学から

1. 生きている温もり(自然共生身体性)

いのちは自然と一体の身体性。つねにうつろうもの。
質と量の両輪。ケアの倫理原則を基盤に。



2. 誰もが主人公(多様性包摂)

包摂はパワーの源。
多様性を有機的につなぐホリスティックへ。

3. 共創ウェルビーイング(寄り添う共感性)

伴走する共感がケアの本質、エンパワメント。
当事者/生活者/実践者/研究者等とともに。